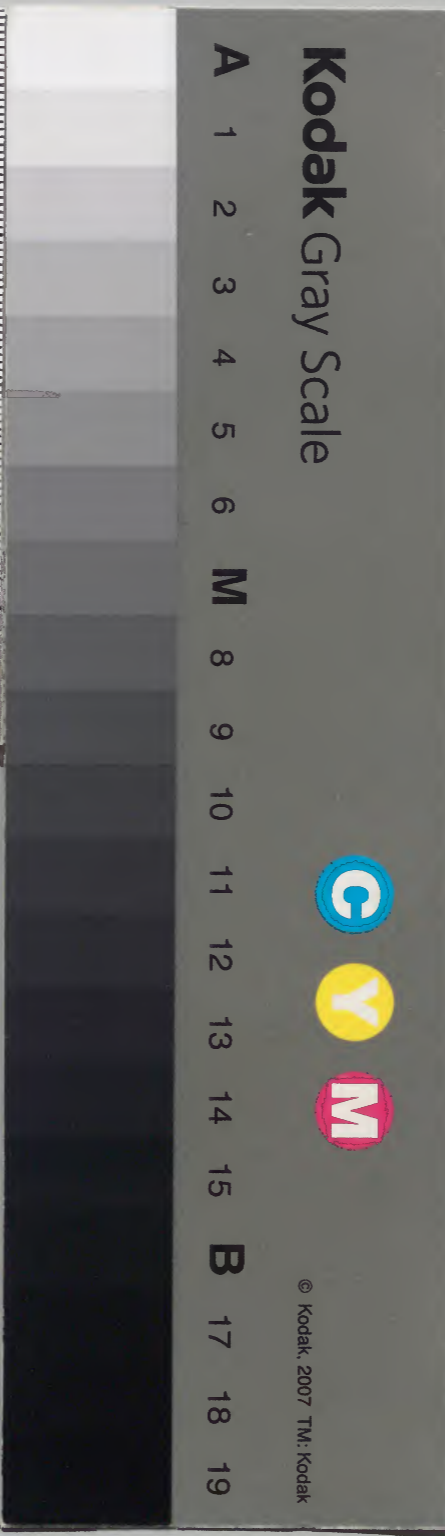


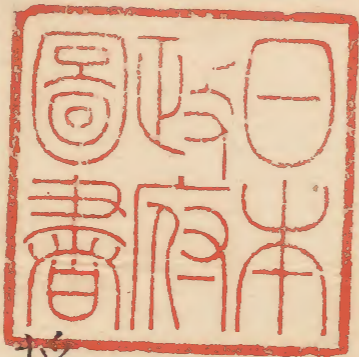
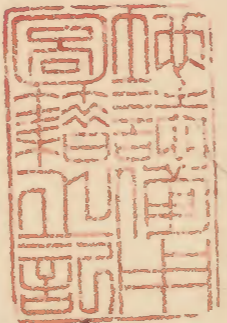
東武實錄

二十三冊

内閣文庫	
番號	和 36646
冊數	21 (13)
函號	150 16

内閣文庫		和書類
五〇函	三六四六號	
九架	一冊	
(三一)		





東武實錄卷第二十二

寛永五年

自正月
至二月

正月朔日

御本城歳旦ノ賀儀例ノ如シ

將軍家西ノ丸ニ

渡御了リ御座ノ間ニ於テ

公ニ御對顔御太刀大澤中將基宥是ヲ披露ス

駿河大納言忠長卿豫參 御座ノ間ニ於テ

公ニ謁ス

公

將軍家御上檀ニ

御著座忠長卿下檀ニ候ス



献ノ御祝御喜例ノ如ク事畢テ後
將軍家還御

同六日

禁裏工年始ノ御嘉儀トシテ御太刀御馬ヲ献
セラル大澤侍從基重右京亮御使トシテ京師ニ赴ク

為子始シ沙礼ハ人母以信言ト作仍御方カ
一懐所馬一疋々々ト云ク百有 羨甚也
沐

二月六日 御辭

三條殿

中院殿

三條殿中院殿ト相認ルノ事如何アルヘキ由御
不審ニ依テ建部傳内本光國師院全地工是ヲ問フノ
處ニ稱號計 尤ノ由是ヲ答ル曾我又右衛門
在世ノ時モ此事 御尋アリ稱號計リ然ヘキ
ノ由申シ上ルニ依テ其レヨリ以後當年ニ至テ右ノ
趣ニ調子来シリ

御太刀 一腰

御馬 一疋

以上

禁裏親王家兩通目錄カクノ如シ此度本光國師工
尋子聞テ大高ノ紙一枚ヲ以テ是ヲ調ル親王家
工御内書是ナキノ儀國師ニ相尋ル處ニ御即停
キ以前ハ御内書ナキ尤ノ旨ヲ答ル 中宮

女院兩御所工モ進セラシス 兩女院ノ御所工
以前進セラル 中宮工ハ終ニ年ノ始ノ
御内書進セラシラルニ依テ 女院ノ御所工モ
去歲ヨリ以來進セラシス

為子奉シ後汝を口ニ授ニ是ヲ送リ所
從人厚以長ク之御也決シ

二月六日 所請

二條

別紙 中院

太刀一腰

馬一疋

山上

同七日 加賀中納言利常新正ノ賀儀トシ

テ太刀一腰馬代黄金三十兩ヲ献スルニ依テ 御

内書ヲ利常ニ賜ル

是日 豊前少將忠利 細川越中守 年始ノ賀儀ト

シテ太刀一腰馬代黄金十兩ヲ献ス是ニ依テ奉書

ヲ忠利ニ賜ル

同十二日 加賀中納言利常茶入ノ袋五 金紗

領國ノ白炭二箱ヲ献ス是ニ依テ 御内書ヲ利常

ニ賜ル

同十六日 明後十八日 西ノ丸ニ於テ

將軍家工御茶進セラルルニ依テ紀伊大納言頼宣

卿駿河大納言忠長卿水戸中納言頼房卿御相

伴タルヘキノ由井上主計頭正就ヲ 御使トシテ仰

セ下カレ則ニ卿 上使ノ御禮トシテ 西ノ丸ニ登

營

公ニ謁シ 御本丸ニ登テ
將軍家ニ謁ス

同十七日 明日御茶進セラル、ニ依テ御禮ト
シテ

將軍家西ノ丸ニ 渡御アリ 御座ノ間ニ於テ

公ニ 御對顔尾張大納言義直駿河大納言忠長

水戸中納言頼房三卿明日 御成リノ御相伴仰

セ出サレ、御禮トシテ 西ノ丸御本城ニ登テ

両君ニ謁ス藤堂和泉守高虎明日

將軍家西ノ丸 渡御ニ依テ供奉仕ルヘキ由奉

書ヲ下サレ高虎御礼トシテ 西御殿ニ登營ス

同十八日

將軍家西ノ丸ニ 渡御ニ依テ御相伴ノ三卿及ヒ

藤堂高虎等寅ノ后尅西ノ丸ニ登ル大手ノ御門ニ

夕開カサレニ依テ御門ノ邊ニ在テ 御成リヲ相

待ツ卯ノ上尅

將軍家渡御三卿高虎等供奉ス外露路ノ堂ニ卯申

尅ニ至テ

將軍家御待合セ成ラセラル其間三卿ヲ 召シテ

御前ニ候ヌ時ニ水井信濃守尚信御迎ニ出ル爰
ニ於テ

將軍家御露路ヨリ入御信濃守尚信御教寄

屋ノ半戸ヲ開テ御車履ヲナヲス

將軍家御教寄屋ニ入御

御教寄屋御道具

一 御懸物

面壁ノ達磨一休筆

一 御釜

筋

一 御水指

瀬戸子子又キ

一 御茶入

猶柴

袋珠光段子

一 御茶碗

高麗討高臺

土井大炊頭
利勝献ス

一 御茶杓

二尊院

一 御花入

彈正

一 御香合

金糸梅

一 御炭計

瓢針屋宗
春献ス

將軍家御掛物

上覽在テ御相伴面々一覽

仕ルヘキ由 仰ニ依テ各拜見事畢テ御膳出ル

將軍家ノ御膳計リ本ニノ御膳供ニ杉ノ足打ニノ御膳ニ香ノ物
ヲツクル御相伴ノ面々ハ杉ノ折敷香ノ物ヲ鉢ニテ引ク
御銚子ニ遍ニ及フノ時

公御勝子ロヨリ 出御在テ御酒賜ルヘキ由仰
セ出サルニ三献ニテ御銚子ヲ引ク
將軍家御中立アリ垂相頼宣卿 御先キニ出テ
御革履ヲナメサント欲スルノ處ニ内田外記正重
外ニ面リテ是ヲナメス
將軍家暫シ御腰掛ニ成ラセラシニ郷ヲ 御前ニ
カス其レヨリ外露路ノ堂ニ 渡御御休足アリ
其間ニ郷ハ外露路ト内露路ノ間ニ退キ居ル
將軍家御敷寄屋ニ 入御垂相忠長卿御革履
ヲナメサルヘキ處ニ内藤外記正重御側ニ在テ是

ヲナメス 御花 梅ト越 前捲

公御手前 御金ニテ 御茶 遊ハサシ

將軍家エ進ヤル御辞退ニ依テ

公召シ上ケテ

將軍家御頂戴大納言頼宣卿ニ賜ル垂相忠長卿

黃門頼房卿和泉守高虎ニ至テ賜リ納ル頼房卿

御茶碗ヲ取テ 御前ヲ窺ヒ

將軍家ニ献ス 上覽有テ後頼宣忠長頼房ニ郷

是ヲ并見頼房卿御茶碗ヲ持テ 御前ニ卷上ル

將軍家是ヲ御取テ

公工進ヤル時ニ
公御茶入ヲ羨之出サセ給フ
將軍家少御六規ヒ百八御氣色ニテ後御手ニ取ラセ
ラシ上覽御相伴ノ面々次第ニ順視ス頼房卿
立座御茶入ヲ持テ
將軍家ノ御前ニ羨シ置ク
將軍家はヲ取ラセ給テ御勝手口近キ所ニ羨シ
置セ給フ御茶入納テ後ノ御炭
公遊ハサシ事畢テ
將軍家御録ノ間ニ出御アリ御節ノ御道具共

台覽三郷及ヒ高虎ニモ御道具一覽スヘキノ由
命セラルニヨリ御相伴ノ輩御上段ニテ參テ是
ヲ見ル爰ニ於テ御菓子蜜柑御薄茶出暫ク有
還御即尅三郷御禮トシテ御本城ニ登ル
將軍家今日御成リノ御禮トシテ西ノ丸ニ渡御
アルノ處ニ鐵御門ニ於テ三郷
將軍家ニ謁シ御跡ヨリ三郷西ノ丸ニ登營ス
將軍家御座ノ間ニ於テ
公ニ御對顔アリ三郷モ御座ノ間ニ召シテ謁
ス

同十九日 今日ヨリ翌二十日ニ至テ 西ノ丸
御教寄屋ニ於テ御茶ヲ賜ル今朝登 營ノ輩

松平陸奥守正宗

松平大隅守家久

松平長門守秀就

上杉弾正少弼定勝

立花飛騨守宗茂

同日ノ晚

松平新太郎光政

毛利甲斐守秀元

佐竹修理大夫義宣

松平土佐守忠義

右馬玄番頭豊氏

南部信濃守利直

宗對馬守義成

松平右衛門佐忠之

藤堂大學頭高次

森右近大夫忠廣

同二十日ノ晚

- 一 不_レ押買狼籍事
- 一 斐不_レ成操竹木不可_レ養作之事
- 一 不可_レ海石陽事
- 一 舊法中人_レ迄_レ一_レ後_レ之_レ爲_レ之_レ自_レ始_レ迄_レ中_レ
 - 分_レ之_レ歸_レ國_レ之_レ上_レ可_レ及_レ抄_レ抄_レ之_レ科_レ之_レ老_レ之_レ抄_レ割
 - 之_レ方_レ之_レ人_レ之_レ中_レ之_レ理_レ之_レ文_レ裁_レ評_レ也

寛永六年二月二日

是日 佐原十左衛門元村 太郎右工 始_レテ 門元次男

將軍家ニ謁ス

同三日 松ノ丸 太閤秀吉ノ室 ヲリ年始ノ祝儀トシテ

吳服ニテ献_レス是ニ依_テ 御内書ヲ賜ル

同六日 駒井右京徳山五兵衛兩人上方御目付トシテ差_レ遣_ハナル時 仰出_{ナル}御書付

- 一 狀度 院下御殿ニ候
- 一 御信_ニ沙_レ殿_ノ之_レ之_レ抄_レ之_レ大_レ之_レ以_レ其_レ之_レ事
- 一 改_レ法_レ講_レ事_レ之_レ 御信_ニ沙_レ之_レ御_レ之_レ

但二條

沙青の所の 沙青の所の信とあつて
可相之事

一 未成とて事小作らる切得てか又又禁
をと入る事

一 大板信 沙青の所の信とあつて下中
沙青信の所の信とあつて一切内
柳とて入る事

一 法事ありて信とあつておつての所
能く守りて沙青信の所の信とあつて

信とあつて沙青の所の信とあつて

一 今度沙青の所の信とあつて又と未成
事とて入る事

一 沙青の所の信とあつて又と未成
事とて入る事

一 沙青の所の信とあつて又と未成
事とて入る事

一 沙青の所の信とあつて

一 沙青の所の信とあつて又と未成
事とて入る事

知事 継任 掃部 次郎 少輔

寛永八年二月六日

同七日 細川三齋 帰國ニ付テ鷹ノ捕ル

所ノ野雁氷砂糖百介使者ヲ以是ヲ献上スルニ依テ
御内書ヲ三齋ニ賜ル

是日 備前宰相忠雄 松平宮内少輔 帰國ノ御禮トシ

テ使者ヲ以テ二荷二種ヲ献上スルニ依テ 御内書ヲ
忠雄ニ賜ル

是日 加藤式部少輔明成若松ノ城ニ相移ルノ

旨使者ヲ以テ申上テ 鞋十尺ヲ献上ス是ニ依テ奉
書ヲ賜ル

同九日 幕下ノ諸士登 営ノ時且江戸中往還

ノ刻召ニ列ル従者ノ負数ヲ定メテ 仰セ出
カル

定

一 二百石 侍三人

一 二百石 同二人

一 二百石 同二人

他 八百石 同二人

のふいゆるを...
一 百姓を...
百姓の...
百姓の...
百姓の...

寛永六年 辰二月九日

同十一日 明後十二日

公御本丸ニ依テ紀伊大納言頼宣
渡御アルニ依テ

駿河大納言忠長水戸中納言頼房三郷御相伴々
ルヘキノ由

將軍家ヨリ酒井讃岐守忠勝ヲ上使トシテ

仰出サレ三郷御礼トシテ御本城ニ登 營

將軍家ニ謁ル 西ノ丸ニ登テ

公ニ謁ス

是日 細川三齋去年拜領ノ鷹捉所

ノ鶴一羽献上ニ依テ 御内書ヲ賜ル

同十二日 明日

公ノ御成リ天氣快晴嘉悦ノ由申上ヘキ為矣

納言頼宣大納言忠長中納言頼房三郷 御本
城ニ登リ則 西ノ丸ニ登營ス藤堂和泉守高虎
明十三日

公ノ 御成リニ供奉仕ルヘキノ由奉書ヲ以テ
仰セ下サル是ニ依テ高虎御礼トシテ登城ス
同十三日

公御本城ニ 来臨ニ依テ紀伊大納言頼宣郷駿
河大納言忠長郷水戸中納言頼房郷寅ノ下尅登
營殿上ノ間ニ於テ

公ノ 御成リヲ相待ツ黎明

將軍家御迎トシテ 西ノ丸ニ 渡御ノ時殿上ノ

間御縁カハニ於テ三郷

將軍家ニ謁ス 御成リ前

將軍家還御卯ノ后尅

公来臨

將軍家鐵御門マケ 出御三郷玄関前御白

洲ニ出テ謁ス

公御廣間ヨリ 御数寄屋ニ 御成リ三郷供奉シ

御数寄屋ニ 入御ノ時頼房郷御数寄屋ノ

戸ヲ開ク

公御掛物

台覽

御成り前

公ヨリ鶴ノ御茶壺ヲ進セラル今日御敷寄屋
御床ニ是ヲ飾ラセ給フ

御敷寄屋御道具

一 御懸物

圓悟

一 御茶壺

鶴

一 御釜

信濃

一 御水指

鳥帽子箱

古備前

一 御茶入

十ヶ頭巾

一 御花入

鶴ノ一聲

一 御茶碗

高麗割高臺

一 御香合

堆朱布袋

一 御茶杓

紫竹利休

公御敷寄屋ニ

御著至ノ後御膳ヲ献セラル御

銚子三遍過御湯ヲ出シ御膳ヲ引ク御中ニ

時頼宣卿戸ヲ開テ御先立ヲス御腰掛工成

ラセラル三郷ヲ御前ニ召シテ候ス頓テ又御

敷寄屋入御三郷供奉御門所望ニ依テ

公御花

黄梅

遊ハサル

御著至

將軍家御手前ニテ御茶

遊ハサル

公御直ニ御茶碗ヲ取ラセラレシ御茶召レシケラレシ
將軍家エトノ御氣色アリ頼房卿之座御茶碗ヲ取テ
將軍家エ獻ス藤堂高虎御挨拶申上ル間暫クアリ此

内ニ

將軍家御手前御仕舞遊ハサレ首尾好キニ依テ
公御機嫌ニ思召サレ御氣色ナリ

將軍家はヲ御頂戴頼宣卿ニ賜リ忠長卿頼房卿
和泉守高虎賜リ納ム頼房卿御茶碗ヲ取テ 御

前ヲ規ヒ

公ニ獻ス

公是ヲ 台覽在テ頼宣忠長頼房高虎等は是ヲ是終テ

頼房卿御茶碗ヲ取テ

公ノ御前ヲ窺フナヲシ置クヘキ由 仰セニ依

テ頼房是ヲ置ク御茶入

公上覽後御相伴ノ輩是ヲ見ル事前ノ如シ

將軍家御金御揚ケ御慰ニト 仰セ上テラルニ依
テ

公御炭ヲ 遊ハサル事畢テ御録ノ間ニ 出御アリ

爰ニ於テ

公御長袴ヲ 召レ口ヘテ三卿ニ御勝手ニ於テ長

袴ヲ著ス
公御録ノ間ヨリ御書院ニ出御猿樂
上覽了リ三卿御次ノ間ニ候ス

御能組

王井 觀世太夫
敦盛 七太夫
芭蕉 七太夫
自然居士 觀世太夫
山姥 七太夫

葵天上 七太夫
御能坂 七太夫
狸々 觀世太夫

御能三番過テ
將軍家ヨリ酒井雅樂頭忠世土井大炊頭利勝ヲ
御使トシテ三卿ヲ御黒書院ニ召シ御酒ヲ
賜ル初献ノ時御酌カハリ
將軍家召シ上ケラレ御盃ヲ三卿ニ賜ル各其盃ヲ
御前ニ上リ和泉守高虎賜リ納ル御能四番

過

公御座ノ間工入御了リ爰ニ於テ御膳ヲ献セラル
三郷ヲ召シテ御相伴ス御土器御銚子出初
献二献ハ御各盞三献ノ時

公ノ御盃ヲ將軍家工進セラル其御盃

公召シ上ケラレ

公ノ御盃ヲ三郷頂戴其盃各

公ニ上リ和泉守高虎賜リ約ル御盃頂戴ノ時

將軍家御肴ヲ三郷ニ賜リ納^マ畢テ

公御書院ニ出御アリ御能過テ後還御三郷御小

廣間ヨリ

御先キニ立御玄關御白洲ニ出テ謁ス

將軍家今日

御成リノ御禮トシテ御裏御門ヨリ

西ノ丸ニ

成ラセラル三郷御跡ヨリ西ノ丸

ニ登營

將軍家御座ノ間ニ於テ

公工御對顔三郷ニ同御座敷下段ニ於テ謁シ退出

御禮トシテ

御本城ニ登營ス

公今日御成リニ依ケ

將軍家工進セラル物

目録

糶之緋目布 三十間

鮮虎皮 十枚

以上

大刀 一柄

馬 一疋

以上

御臺所、御方工進セラレ物

之くらく

志ら、うき 二百枚

まゝの物 八十

以上

侍女中下サレ物

之くらく

志ら、うき 二十枚

以上

同

二十枚 あをら

同

二十枚 たけ

同

十枚 たけ

以之

同十四日 朝比奈内記正重卒ス三十三歳

同十五日 天野九郎右衛門正重佐五石工天野

弥左衛門忠願 彦八郎始テ

公ニ謁ス

同十六日 松平右京長次卒ス

同二十日 浅野但馬守長晟鷹ノ鶴一羽ヲ献ス

是ニ依テ奉書ヲ賜ル

同二十三日 彦根少将直孝辯ノ難ニ桶ヲ献ス

是ニ依テ奉書ヲ賜リ且ツ所勞ヲ問ハセ給フ

同二十八日 徳永左馬助昌重 式部卿法印俗名石見守壽昌男

濃列高須ノ城采地五万六百石餘ヲ没収セラレ去

歳ニ命ニ依テ撰列大坂ノ城石壁ヲ築ク然レ處
ニ昌重力領地頃年續テ水損シ從者悉ク困窮ス
其上此節昌重病痾タルニ依テ石壁ヲ築ク事遅滞ス

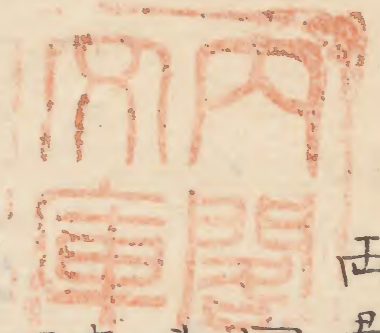
是月 戸川正安 後土佐守 父肥後守達安力
遣領備中國庭瀬ヲ賜ル

東武實録卷第二十三

寛永五辰年 自三月朔日 至同月二十八日

三月朔日 水戸中納言頼房卿 西ノ丸ニ
登營

公ニ謁ス時ニ来ル四日紀伊大納言頼宣卿ノ亭ニ
渡御了リ御相伴タルヘキノ由 仰出サレ頼
房卿退出後御禮トシテ 西ノ丸ニ登ル
是日 土岐内記頼豊 山城守定 義三男 土岐十九衛門頼
親 山城守定 義四男 土岐伊織頼久 山城守定 義五男 兄弟三人始テ



両君ニ謁ス

同日

阿部備中守正次大坂城ニ於テ腫物

ヲ痛テ煩フ是ニ依テ其子三浦山城守重次三浦

重成重成頼子實ハ阿部備中守正次男後ニ阿部對馬守ニ改ム御暇ヲ賜リ正次カ

腫物ヲ問ハシメ給フ重次江戸ヲ發シテ大坂ニ赴

ク時ニ

將軍家御書ヲ正次ニ賜ル

腫物ニ依テ煩フ是ニ依テ其子三浦山城守重次

重成頼子實ハ阿部備中守正次御暇ヲ賜リ正次カ腫物ヲ問ハシメ給フ重次江戸ヲ發シテ大坂ニ赴ク時ニ

二月二日

阿部備中守正次ノ御書

同日

公紀伊大納言頼宣卿ノ亭ニ來臨アルニ依テ御相

伴水戸黃門頼房卿藤堂和泉守高虎立花飛彈

守宗茂黎明頼宣卿ノ亭外露路ノ堂ニ至テ御

成リテ相待ツ所ノ中刻

公來臨頼房卿藤堂高虎立花宗茂等堂ノ前茅

門ノ内ニ於テ謁ス頼房卿數寄屋ノ戸ヲ開ク時ニ

公數寄屋ニ入御

數奇屋道具

懸物

虛堂

釜

七ノ紐

水指

南臺物

茶入

了介ノ衣

茶碗

膳所焼

茶杓

織部作

香合

堆朱布袋

花入

金翅鳥

鑲ノ間筋

硯

八角

筆

唐

筆架

兩龍

水入

力子ノ物

袋棚

釜

六角

水指

青磁

茶入

玉垣

天目

灰被

一 臺

尾ヶ崎

一 茶杓

新

一 羽簾

黒鶴

一 蓋置

ホヤカウ口

銅壺ノ間餅

一 懸物

繪讃 一休筆

一 香爐

刀子ノ物

一 釜

姥口

一 中次

一 茶杓

新

一 水指

古備前

公掛物

上覧御著坐ノ後御膳ヲ獻ス御中

立ノ時頼房卿御革履ヲナサス

公御腰掛ニ暫ク成ラセラシ教寄屋ニ入御ノ

時頼房卿高虎宗茂等供奉ス御花_{椿白玉}

公遊ハサレ御茶_{召シ上ケラレ}是ヲ頼宣卿頂

戴頼房卿高虎宗茂ニ至テ賜リ納ル宗茂 御前

ヲ窺ヒ茶碗ヲ頼宣卿ニ渡ス茶入 台覧御相伴

ノ画々各

公御手ニ取ラレ直シ置セ給ヒ後ノ御炭 遊サレ事
畢テ後録ノ間ニ 出御爰ニ於テ御長袴 召シカ
ヘラシ飭リ置ク道具トモ 上覽此間ニ御相伴
公ノ面々交ヲ長袴ヲ著ス
公御長袴ヲ 召シカヘラシ 御成リ書院ニ出御
頼宣頼房兩卿ヲ 御前ニ 召シテ伺候ス猿樂初
リ 上覽アリ

能組

竹生嶋

觀世大夫

八嶋

七大夫

江口

七大夫

紅葉狩

觀世大夫

天鼓

今春大夫

御七能 藤采

七大夫

橋辨慶

七大夫

祝言

觀世大夫

猿樂四番過 御成書院ニ於テ御膳ヲ獻ス初
献ニ献御各盃三献ノ時養珠院ノ御方ヨリ色々ノ

并領忝ナキノ旨申上ラレ御盃ノ臺ヲ獻ス色五
ノ系ヲ以テ是ヲ依ル

此御盃ニテ

公召レ上ケラレ頼宣卿頂戴時ニ御腰物ヲ頼宣

卿ニ賜ル其盃ヲ

公召レ上ケラレ時頼宣卿御腰物ヲ獻ス其御盃

ヲ頼房卿ニ賜ル其盃御前ニ上リ和泉守高虎頂

戴レ賜リ納ル兼テ猿樂七番ナリシカ氏御乞

能アルニ依テ今日ノ猿樂八番ホリ畢ガレ後遷

御頼宣頼房二卿御禮トシテ西ノ丸御本丸西御

殿ニ登營ス

同八日 米倉傳五郎ト奥津七左衛門江波太

郎兵衛内田五郎右衛門奥山七之助闘諍ス其故ハ

奥津七郎左衛門江波太郎兵衛二人米倉傳五郎ニ

遣恨アリ内田奥山兩人好交ノ明友タルニ依テ是

ニ同意シテ此日黄昏ニ及テ米倉力宅地ニ競ヒ来

ル四人ノ家人等大勢是ニ從フ米倉兼テ遣恨アリ

更テ知ルニ依テ是ヲ察シ門ヲ閉テ支度ス其門ニ

寄セ来ル多勢既ニ門ノ扉ヲ押し破ラントス時ニ

米倉力老母下人之下知シテ扉ノ下ヨリ鐘ヲ多ク

突出テシメ長屋ノ窓ヲ開テ矢ヲ射出ス是ニ猶豫

シテ寄セ来ル大勢門ニ近ツク夏ヲ得入老母家内
ヲ走り廻テ是若シキ雜具等ヲ長擲ニハコヒ入シ
是ヲ燒奔ント支度ス米倉カ從士渡邊萬右衛門
弓ヲ以テ是ヲ拒カント進テ命ヲ殞ス此墮ニ米倉鏢
帷子ヲ著シ鏢十字文ヲ提テ門ヲ開テ突テ出米倉
家人青木七郎左衛門鏢取ニ從テ米倉奮ヒ戦ヒ奥
津江波二人ヲ遂ニ突殺ス米倉腕ニ疵ヲ被テ鏢ヲ
採ル事自由ナラヌ是ニ依テ鏢ヲ弃カテ採テ内田ニ
向ヒ戦ヒ相撃テニス内田衆人ニ勝ヒテ剛力ノ者
ノナリ米倉カ頂ヲ切ルト云ヘ氏鏢ヲ著スルノ間

疵ツク事ナシ内田深手ヲ負テ其場ヲ退キ番町
願正寺一面向門前ニ退テ遂ニ死ス奥山モ疵ヲ被テ一ツ
木ニ引退ク青木七郎左衛門戦死ス寄手ノ主人命ヲ
殞スニ依テ其從者著皆退散ス時ニ米倉 公儀
ヲ憚テ暫ク屋地ヲ退クト云ヘ氏遠ク行カス命ヲ
奉テ歸リ来リ自殺セント欲スルノ日始終ノ子細
ヲ書キ記シ其隊長松平内膳正重則カヒトニ遣ス
重則是ヲ 台聽ニ達ス 命在テ曰ク奥津江波内
田奥山等四人ノ輩遺恨アルニ依テ討諍スルト云
ヘ氏 城下ニ於テ大勢ヲ催シ集ル事從黨ノ罪輕

カラス其上大勢ヲ以テ米倉一人ニ勝ツ事ヲ得ス
判サヘ大勢其場ヲ敗比ムルノ事憶シタルノ間尋
出サシ斬罪アルヘキノ 御旨ニテ土屋市之丞ヲ
檢使トシテ恙シ遣ハサルノ處ニ内田ハ疵ヲ痛
テ其夜ニ死ス奥山此 命ヲ傳ヘ聞テ檢使ノ来
ラサル以前ニ自殺ス米倉ハ武勇ノ勤キ被群ナリ
イヘ氏鬪詳ノ相手死スルハ 召シ返サルヘキノ
アウナルノ由ニテ米倉遂ニ幕下ヲ去テ牢浪
ノ身トナル 後紀伊垂相頼
宣卿ニ属ス
同十日 肥後侍従忠廣 如藤肥
後守 御暇ヲ賜リ呂

々拜領シ歸國スルノ御禮トシテ卷物十端ニ
荷二種使者ヲ以テ是ヲ獻スルニ依テ奉書ヲ忠
廣ニ賜ル

同十二日 肥前侍従 錦嶋信濃
守勝茂 歸國ノ御禮ト
シテ卷物十卷二樽兩種ヲ獻ス是ニ依テ奉書ヲ
勝茂ニ賜ル

同十三日
公仙臺中納言正宗カ家ニ 渡御アリ先ツ教寄屋ニ
成ラセラル 御相伴丹羽五郎左衛門長重藤堂和
泉守高虎立花飛弾守宗茂御茶過テ後廣門ニ

出御猿樂 上覽了り猿樂三番過几ノ時 御
休息ノ間ニ入御爰ニ於テ御膳ヲ獻ス

数寄屋道具

懸物

虚堂

釜

カハス

水指

信樂

茶入

山ノ井

一名掘
口肩衝

茶碗

高麗

千鳥

茶杓

道菴

香合

堆朱布袋

花入

礎

耳ツキ

炭計

瓢

鑱ノ間

水指

カ子ノ物

茶入

紹高フンリン

天目

灰被

茶杓

尼ヶ崎

蓋置

新

書院

ウケキ

硯

筆

水入

黒

筆架

香爐

瓦

唐物

刀子ノ物

唐

刀子ノ物

東福寺

青磁

忠度

白髮

能組

今春大丈

八右衛門

湯谷

鶴

舟辨慶

八右衛門

觀世大丈

七大丈

自然居士

善知鳥

祝言

八右衛門

七大丈

今春大丈

今日 御成リニ依テ中納言正宗ニ賜モノアリ

目録

浪子

少致

灰衣

大内

八丈縮

百端月

二十あしせあより
奉英
二十日海子

心と

古刀

一腰

馬

一疋

中納言正宗内室ニ賜モノ

浪子

灰衣

二夏

古刀

大内

二度あしせあより
一合入あしせあより
一合入あしせあより

心と

是日

將軍家ヨリ内藤伊賀守忠重ヲ 上使トシテ明十四日

紀伊大納言頼宣卿ノ亭ニ 渡御アリ御相伴々

ルヘキノ由駿河大納言忠長水戸中納言頼房兩卿

へ仰下ナル御禮トシテ忠長頼房登 堂

同十四日

將軍家紀伊大納言頼宣卿ノ亭ニ 渡御アルニ依テ

御相伴駿河垂相忠長卿水戸黄門頼房卿藤

堂和泉寺高虎丹羽五郎左衛門長重等未明ニ

頼宣卿ノ亭ニ豫参ス卯ノ中刻

將軍家来臨御相伴ノ面々外露路ノ堂ニ於テ謁教

寄屋ニ 入御ノ時各供奉ス

將軍家掛物 上覽御著座ノ時御膳ヲ獻ス御

中之有テ後又教寄屋ニ 入御アリ御花

將軍家遊ハナル御茶 召之上ケテ大納言頼宣卿

是ヲ頂戴忠長卿頼房卿和泉寺高虎五郎左衛

門長重ニ至テ賜リ納ル

將軍家茶入 上覽長重是ヲ取次御相伴ニ卿

一覽後ノ御炭

將軍家遊ハカレ事畢テ後御長袴ヲ 召カエテ

御成り書院ニ 出御黄金呉服ヲ頼宣卿ニ賜ル宸

テ於テ猿樂初リ能四番過テ後 御成リ書院ニ
於テ御膳ヲ獻ス初献ニ献 御各盃三献ノ時養
珠院ノ御方ヨリ御盃ノ臺 色々ノ糸ヲ以テ是ヲ作ルヲ献セテ
此御盃ニテ

將軍家召レ上ケテ賴宣卿頂戴時ニ御腰物ヲ賴
宣卿ニ賜ル其盃

將軍家召レ上ケテ賴宣卿御腰物ヲ獻其
御盃ヲ忠長卿頂戴其盃 御前ニ上リ賴房卿ニ
賜ル其盃 御前ニ 召レ上ケテ和泉守高虎頂
戴レ賜ル納ル猿樂畢テ後 還御アリ忠長賴

房西卿御成書院板椽ニ在テ謁ス 還御以後賴
宣忠長賴房三卿御禮トシテ 御本城ニ登リ御座間ニ於テ
將軍家ニ謁シ 西ノ丸ニ登リ 當時ニ老臣等ヲ 御

前ニ召レテ御用ノ事是アルノ由ヲ聞テ豊崎^シ刑
部少輔ニ申置三卿退出ス

是日 京都大坂御用ノ儀ニ依テ板倉内膳正重
昌ヲシテ京師ニ赴ムカシメ給フ時ニ十三筒條ノ
御書付ヲ重昌ニ賜ル重昌是ヲ持シテ江戸ヲ發ス

一 時と申す方々千鈔系書判と心持水
言と云。お願心者自とて申すお願心合
いしとて可致事

一 博水馬也事板合周防と向分

一 治量法守の事可下後事

一 阿部信中と贈物法と改書事

一 龍泉寺の事 勅使法務位法一任事

一 瑞方山中の事 九月九日 宗法

一 宗法

一 今度沙利と一巻と云仕周防と云判受

相違りし事判と申す事

一 治次通事 丹波の事 下百年 法位 及事

一 遠くも也又百石以下 周防 能事

一 付又及事

寛永六年二月十四日

是日 去月徳永丸馬助昌重領地ノ没収セラル
ニ依テ彼在所濃州高洲城松平隠岐守定行
是ヲ請取り沙汰スヘキ由 釣命ヲ奉テ酒井推

藤堂和泉守高虎丹羽五郎左衛門長重 御成
 公リノ供奉仕ルヘキノ由奉書ヲ以テ 仰下ナル頼宣頼
 房兩卿藤堂高虎丹羽長重等御禮トシテ登城
 是日 肥後侍從忠廣 加藤肥後守 鷹ノ捉ル所ノ鶴ヲ
 獻ス是ニ依テ奉書ヲ忠廣ニ賜ル
 是日 徳水下総守昌勝 左馬助昌重男 父昌重カ罪依
 テ溝口伯耆守宣勝ニ預ケラレ越後國柴田 一名新發田
 ニ配セララル 慶安元年六月三日赦免ヲ蒙リ
 同十八日 江戸ニ帰參食録ニ千俵ヲ賜ル

公駿河大納言忠長卿ノ亭ニ渡御アリ忠長卿御迎

ノ為メ寅ノ中刻 西ノ丸ニ登リ 御成リ以前ニ
 退出ス紀伊重相頼宣卿水戸黄門頼房卿藤堂
 和泉守高虎丹羽五郎左衛門長重等忠長卿ノ
 家外露路ノ邊ニ在テ 御成リヲ相待ツ卯ノ中刻
 公渡御アリ忠長卿門外ニ出テ今日ノ 御成リ忝ナ
 キノヒ日ヲ并謝ス御相伴ノ面々外露路ノ内堂ノ前
 ニ蹲踞シテ謁シ教寄屋ニ入御ノ時供奉ス
 公教寄屋ニ成ラセラレ 御著座ノ時御膳ヲ獻ス
 御銚子三遍ノ後御膳過 御中ニアリ頻テ亦教寄
 屋ニ入御

公御花 遊ハサレテ御茶ヲ獻ス是ヲ 召レ上テ

ラレ西相頼宣卿ニ賜ル頼宣卿西相忠長卿ニ時宣

在テ是ヲ頂戴黄門頼房卿取次忠長卿ニ遣ハス

忠長卿是ヲ賜リ頼房卿和泉守高虎五郎左衛門

長重ニ至テ賜リ納ル

公御炭 遊ハサレ事畢テ後教奇屋ヲ 出御有テ泉

水ノ間ヨリ忠長卿ノ寢所ヘ成ラセラル御菓子

御薄茶ヲ獻ス爰ニ於テ忠長卿ニ賜モノアリ

公御長袴 カコレカヘラレ 御成リ書院ニ 出御猿

樂初ル

能組

賀茂 觀世大夫

實盛 七大夫

松風 七大夫

頂羽 今春大夫

耶那 七大夫

鉢木 七大夫

御乞能 七大夫

祝言 觀世大夫

猿樂四番過泉水ノ間ニ於テ御膳ヲ獻ス初献ニ献
ハ御各盃三献ノ時御酌カハリ

公ノ御盃ヲ垂相頼宣卿頂戴共盃

公召シ上ケラレ垂相忠長卿ニ賜ル其盃 御前ニ上

ルノ時忠長卿御馬ヲ獻ス其御盃頼房卿頂戴

其盃御前ニ 召シ上ケラレ藤堂和泉守高虎頂戴

ニ賜リ納ル三卿へ御盃ヲ賜ルノ毎度

公御手ツカウ御肴ヲ下サル猿樂畢テ後 還御頼

宣頼房二卿 御成リ書院ノ板縁ニ蹲踞シテ御挨拶

授申上ケ 還御ニ先キ立テ門外ニ出テ謁ス忠長頼

宣頼房三卿御禮トシテ 西ノ丸ニ登城 御座

ノ間ニ於テ

公ニ謁ス

公今日 御成リニ依テ大納言忠長卿へ賜モノ

古カ 一腰

馬 一疋

ハト

目録

浪子

六百枚

二十

小神
目
之
之

二十坂
二十坂
十坂

同二十二日 西ノ丸御数寄屋於御茶
几輩卯ノ上刻登營

蜂須賀蓬菴

丹羽五郎左衛門長重

加藤左馬助嘉明

加藤式部少輔明成

同日午ノ后刻登城ノ輩

松平伊豫守忠昌

松平出羽守直政

松平大和守直基

松平土佐守直久

延壽院

御敷寄屋御道具

塞翁 繪讚

節

唐津

執高

紀三井寺

二尊院

三嶋

都力へり

御掛物

御釜

御水指

御茶入

御茶碗

御茶杓

御香合

御花入 御花 藤椿

同二十六日

將軍家松平陸奥守正宗カ家ニ

渡御アリ

同二十七日

若狭少将忠高

京極若狭守

所勞毎度

御尋ニ依テ微驗ヲ得ルノ日同姓主馬首ヲ使トシ

テ申シ上ル則主馬首ヲ御前ニ召シ出サシ忠高

カ病躰 御尋其上 御内書ヲ忠高ニ賜ル

同二十八日

將軍家西ノ九ニ

渡御猿樂

御見物饗膳ヲ進セ

テ御相伴紀伊相頼宣郷駿河相忠長水戸黄門頼房三郷御挨拶ノ夕メ藤堂和泉守高虎登堂ス

御能組

難波

觀世大吏

朝長

七大吏

東北

今春大吏

張良

保生大吏

道成寺

七大吏

三輪

七大吏

壇風

金剛大吏

現在鶴

今春大吏

狸

觀世大吏

是日

酒井内記忠重

備後守忠利三男

御步行頭卜十儿

